

陸生ホタル研

No154

2026年6月10日

陸生ホタル生態研究会

電話 FAX：042-663-5130

Em：rikuseihotru.07@jasmine.ocn.ne.jp

八王子市みなみ野七国峠の赤道と

陸生ホタルの保全問題を考える

小俣軍平

1.はじめに

東京都八王子市と町田市を東西に仕切る多摩丘陵については、その歴史的な成り立ちから、半世紀にわたる東京都三多摩地域の開発問題と地域住民の自然保護運動、動・植物の生態研究、陸生ホタルの生態研究などなど、陸生ホタル研の月報でも様々なテーマでとりあげてきました。

今回の報告は、ここに残る「赤道」と呼ばれる農作業用に形成された農道と、農道沿いに生息する陸生ホタルの生態についてです。

まず、関東山地の高尾山系から始まる多摩丘陵の西端にほど近い、八王子市の「七国峠」から、この赤道の現状をご覧くださいませ。

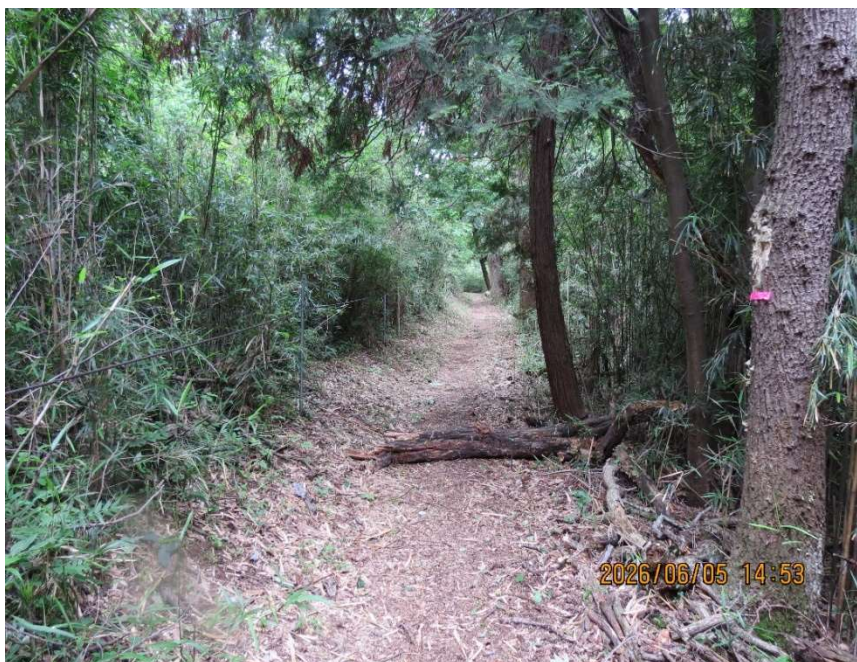
1：図 七国峠の赤道にある道路標識



2：図 矢印が1：図の標識。ここから左の赤色三角コーンの方へ入っていきます。



3：図 道上に倒木と落枝がみられます。



4：図 大きな倒木があります。



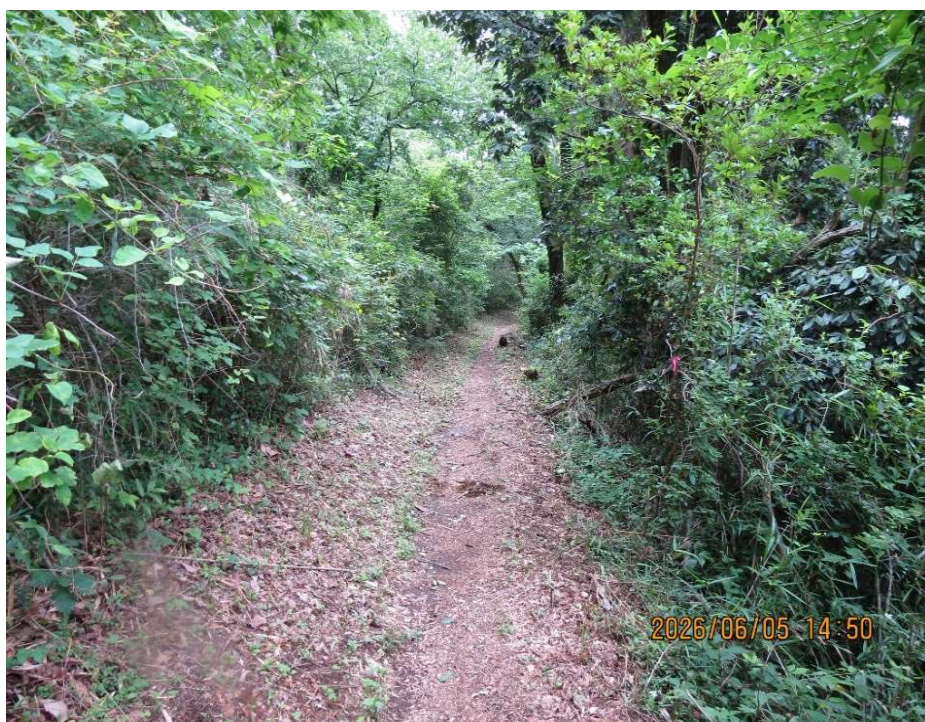
5：図 赤道の両側の林床は、アズマネザサに覆われています。



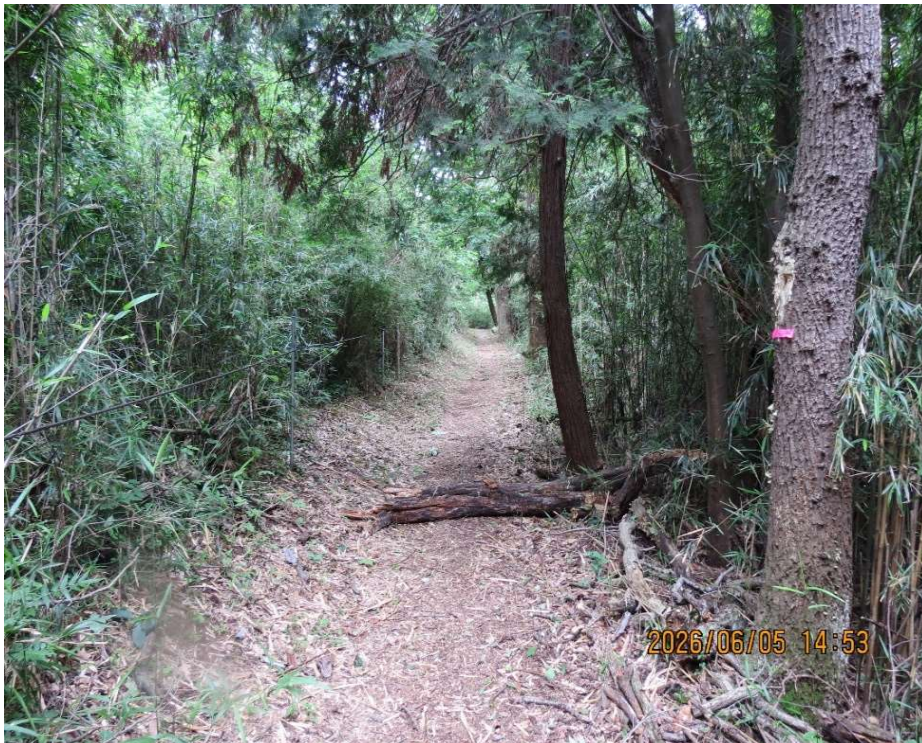
6：図 道沿いの林床は、ずっとアズマネザサに包まれてしまっています。



7：図 こちらは、アケビ・クズ・ツタの類が大繁殖しています。



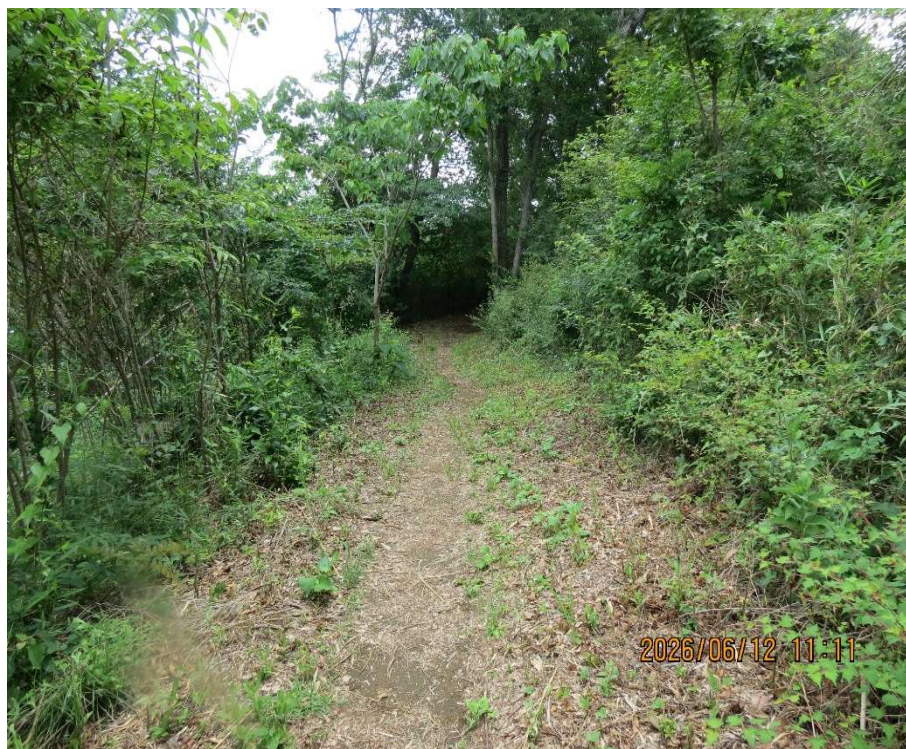
8：図 ここにも倒木があります。根元を残して搬出・処理されています。



9：図 コナラの落枝がみられます。枝は切り取って処理されています。



10：図 左側は幼木です。3年ほど前に萌芽更新されたものです。



11：図 黄色の円内は、絶滅危惧種のアカネ科ヤブムグラです。
よくぞ生き残っていました。この赤道沿いに4か所残っています。



12：図 ここは道の両側とも、3年前に萌芽更新されています。



13：図 7年程前のコナラの倒木が、そのまま放置されています。



(以下余白)

14：図 尾根下にあるみなみ野の保育園の園児達が、よく歩く場所です。柵が設置されています。



以上、七国峠から5 kmほどについて、赤道の現状をみていただきました。今年これまで初めてのことで、ご覧のように、道沿いが鎌ではなくエンジンカッターで、きれいに草刈りがされています。保育園児をはじめハイカーが日常的に歩きますから、当然のことかもしれません。しかしそれによって、縄文・弥生の時代からこの赤道に生息していた陸生ホタルをはじめ、多くの土壌動物は消滅してしまったと思われます。

八王子市の市役所の公園課を訪ねてお聞きしたところ、赤道は北側が八王子市、南側が町田市になっており、草刈りは今年は町田市がやりました、ということでした。

私は、この日赤道の記録写真を撮り歩きながら、「なぜこんなことに・・・」と、涙がとまりませんでした。

あとがき

今年も早くも6月半ばを迎えましたが、全国的に大問題になっている熊の街中への出没の影響で、八王子市でも陣場山系・高尾山系では、陸生ホタルの羽化状況の調査ができません。異常事態です。

そこで先週の6月5日、高尾山の南端から中央線の高尾駅付近まで6km程、熊に関係ない場所で、ゲンジボタルの羽化状況を調べてみました。しかし、ホタルの発光・飛翔はみられませんでした。川沿いの民家の方にお聞きしてみますと、

「今年は5月の中頃にはゲンジボタルが飛び始めて、月末には終了しましたよ。こんなことは見たことも聞いたこともありません。驚いています。」

とのことでした。

会員の皆様がお住まいの地域での状況は、いかがでしょうか。何か判りましたら、ぜひ事務局までお知らせください。6月は調査に出ていることが多いので、電話でなくメールでお願いいたします。